

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立佐良山小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで実践力のある児童の育成」
 ○考える子
 ○思いやる子
 ○やりぬく子

今年度の指導の重点

1. 自ら主体的に学び、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。
2. 特別支援教育の充実を図る。
3. 命や人権を大切にする子どもを育成し、心豊かな人間性を育む。
4. 家庭や地域社会との連携を密にし、安全安心で開かれた学校づくりに努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

・全国(小学校)
 ○算数は、ABともに県平均とくらべると正答率は低いが、昨年度よりその差は大きく縮まった。
 ○国語Aについては、県平均との差が昨年度より縮まった。
 ○国語Bについては、県平均と比べると正答率が低く、差も開いた。
 ○2.1÷0.7で除数が整数になるよう工夫して計算する:本校78.4%(県72.1%)
 ○漢字を読む『貯金』:本校100%、漢字を書く『相談』本校35.3%(県69.7%)
 ○国語Bでは、目的に応じて文章を読んだり書いたりする内容で県平均を大きく下まわった。(－10%以上)
 ・県(中学校)
 ○国語、理科での正答率は、県平均をやや上回った。
 ○社会、数学においても県平均との差はかなり縮まった。

【学習状況調査の結果】

○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が、県平均より高い。
 ○家庭学習を全くしない児童はいない。
 ○学校の宿題や予習をしている割合は県平均よりやや高いが、予習や復習をしている割合はやや低い。
 ○読書が好きな児童や平日の読書時間の割合は県平均より高いが、全く読まない児童の割合も県平均より高い。
 ○平日にテレビの視聴、ゲーム、インターネットをする(2時間以上)児童の割合は、県平均より高い。
 ○「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合は、県平均より低い。しかし、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童の割合は、県平均より高い。
 ○「学校で友達に会うの楽しい」と思っている児童は、県平均より高い。
 ○学級会や授業の話し合い活動で、「自分の考えをしっかりと伝えた」「工夫して発表していた」と回答する児童の割合は、県平均より低い。

成果と課題

○国語に関する質問項目全般(読書以外)で児童の評価が低く、読んだり書いたりすることを苦手としている傾向は変わらない。
 ○「算数がわかる」と回答する児童が増え(県比プラス0.3%)、基礎基本の定着や意欲の向上が進んだ。
 ○国語のB問題では、条件に合う内容を選択したり、条件に合わせて文章を書く力に課題が残った。
 ○授業の中で話し合い活動を行った児童の割合は県に比べて少ないが、少しずつ改善している。(県比－19%以上→－7.4%)
 ○学習を振り返る活動を行った児童生徒の割合が県に比べて少ないが、少し改善している。(県比－12%以上→－7.3%)
 ○平日に図書館を利用する生徒の割合は45.1%(昨年度46.8%)で継続して取り組んでいる。
 ○家で宿題はしているが、授業の予習や復習をしていない児童が昨年度より多い。
 ○土日に1時間以上家庭学習をする児童の割合は、やや伸びているものの依然として県に比べて少ない。(県比－12.1%→－9.2%)
 ○平日、ゲームを2時間以上する児童の割合が37.3%(県28.9%)と高い。
 ○自己肯定感が高い児童の割合は、依然として県に比べて低い。(県比－32%)

課題に対応した改善方法

○毎日の授業の中で、自分の考えをノートに書く活動を取り入れ、ノートの書き方指導も徹底する。
 ○朝学習で、週1回は副教材を利用しながら言語活動の学習に取り組む。
 ○算数の授業や朝学習では、webプリントを効果的に活用して、復習や習熟、定着テスト等を行う。
 ○学力・学習状況調査の問題について、各学年の学習内容と照合し、重点をおいて指導するとともに、問題を活用する。
 ○校内研究の中で、授業ファイブの定着、思考力と表現力を伸ばす授業改善を追求する。
 ○学年に応じた系統性のある話型を検討し、学校として統一した話し方・聞き方をめざす。
 ○学級会などでの話し合い活動に取り組むとともに、教科学習でも、ペア学習や班学習等の話し合い活動を積極的に取り入れる。
 ○10月11月に算数の補充学習時間として、5時間×2回を確保し、学習の補強、定着を図る。
 ○4年生以上の補充学習(年度後半12時間)では、基礎と発展コースに分かれて実態に合わせた学力保障をめざす。
 ○学期2回、ノーマディア週間に家庭学習の時の調査も行い、家庭学習時間の確保を徹底する。
 ○引き続き「夜9時以降、ゲーム機、スマホ等は保護者預かりの学校」宣言を徹底していく。
 ○縦割り班活動を掃除、遊びに取り入れ、互いに関わり合う機会を確保して、高学年児童に自己有用感を持たせる。
 ○落ち着いた授業環境定着のため、学期始めに全校に基本的約束事項を示し、徹底していく。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

○児童へのアンケートの実施(2,3学期)
 ○職員へのアンケートの実施(2,3学期)
 ○過去問題を活用した校内学力テスト実施(2,3学期)
 ○「魅力ある授業作り徹底事業」を活用した授業評価と指導(年7回)
 ○ノーマディアと家庭学習時間調査アンケートの実施(学期2回)
 ○県学力定着たしかめテスト(4年,5年)(2学期)

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

○「算数がわかる」と回答する児童の割合を80%以上にする。
 ○「国語が好き」「授業がわかる」と回答する児童生徒の割合を県平均(80%)にする。
 ○全国及び県学力テストの過去問題テストで正答率を上げる。(国語:県平均との差を5ポイント以上縮める。算数:県平均に達する。)
 ○土日に家庭学習が1時間以下の児童生徒の割合を県平均より少なくする。
 ○学級会などでの話し合い活動に取り組むとともに、学習でも、毎日1回は話し合い活動(ペア・グループ)を取り入れる。
 ○「自分によいところがあります」と回答する児童の割合を60%以上にする。